

飼料用全粒玄米はブロイラー飼料中のトウモロコシと100%代替できる

ブロイラーの後期飼料中のトウモロコシを飼料用全粒玄米で100%代替しても生産性や産肉性に悪影響はない。飼料用米の単価によっては飼料費の節減により低コストで鶏肉を生産することが可能である。

内容

ブロイラー（チャンキー）に全粒玄米の飼料用米を自家配合によりトウモロコシと30%、50%、75%及び100%代替した飼料（全量中飼料用米割合はそれぞれ19.5%、32.5%、48.8%及び65.0%）を給与し、生産性及び産肉性を比較した。

試験区は30%区、50%区、75%区、100%区及び対照区の5区分を設け、ブロイラー200羽を各区40羽ずつに分けてウィンドウレス鶏舎で7週齢まで飼育した。飼料用米の給与期間は肥育後期の3～7週齢（28日間）とした。

その結果、いずれの区においても嗜好性に問題はなく、健康状態は良好であった。雌雄平均体重は各区分には有意差は認められなかったが、すべての試験区の体重が対照区を上回った。飼料要求率は100%代替区が最も優れ、代替割合に比例して優れる傾向がみられた。正肉歩留まりは30%代替区が最も高く、代替割合に比例して劣る傾向が

みられたが、100%代替区と対照区との間に有意差は認められなかった（表）。肉の色は代替割合に比例して淡くなる傾向がみられた（写真）。もも肉の脂肪酸組成のモノ不飽和脂肪酸割合は、75%代替区及び100%代替区が30%代替区及び対照区に対して有意に高かった。1羽当たり飼料費及び正肉100g当たり飼料費はすべての試験区が対照区よりも少なかった（表）。

以上のことから、ブロイラーでは肥育後期の飼料中のトウモロコシを100%まで全粒玄米で代替しても生産性や肉質に悪影響を及ぼさないと考えられた。

今後の方針

飼料用米を初生時から給与して、長期間の飼料用米給与がブロイラーに及ぼす影響を調査し、飼料用米の多給技術を確立する。

龍田 健（家畜部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2429）

表 各区の成績比較

項目	30%区	50%区	75%区	100%区	対照区
雌雄平均体重 (g)	3,512	3,495	3,501	3,488	3,456
飼料要求率*	1.74	1.70	1.67	1.65	1.80
正肉歩留まり (%)	42.8a	41.8ab	41.5b	41.4b	41.7ab
モノ不飽和脂肪酸割合 (%)	42.1b	43.9ab	47.0a	46.5a	41.0bc
1羽当たり飼料費 (円)**	373	367	369	367	374
正肉100g当たり飼料費 (円)**	24.8	25.1	25.4	25.4	25.9

a,b,c: 異符号間に有意差あり (p<0.05)

*飼料消費重量 ÷ 増体重量

**籾米: 32.4円/kg、糶摺費用: 17.0円/kg(歩留まり80%)、トウモロコシ価格: 56.9円/kg



30%区 50%区 75%区 100%区 対照区
写真 各区の肉色比較